

平成 29 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ講座・助教
氏名 Name	仲尾周一郎
専門分野 Academic Field	言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	サブサハラ・アフリカにおけるアラビア語の歴史的展開についての概観
<p>本年度はサブサハラ・アフリカにおけるアラビア語の歴史的展開について、伝統的口語アラビア語方言・口語アラビア語接触変種・文語アラビア語接触変種・アラビア語借用語の 4 つの視点から見取り図を描き(特に論文③においてこの枠組みを示した)、前年度までの成果に加えて、エチオピア(2017年9月2-16日)およびケニア(2018年3月11-18日)で行ったフィールドワーク・文献調査に基づいて以下の研究発表および論文執筆を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 口頭発表① Shuichiro Nakao “On three hitherto unknown vocabularies of Ethiopia-Sudan border languages”, エチオピア諸語研究会(平成29年度第1回), 2017年7月22日. ● 口頭発表② 仲尾周一郎「北東アフリカ非バントゥ諸語の参照文法」, 東京外国語大学 AA 研共同研究プロジェクト「参照文法書研究」(研究代表者: 渡辺己) 研究会, 2018年3月6日. ● 論文① 仲尾周一郎「ベニシヤングル・アラビア語に関する覚書」, <i>Studies in Ethiopian Languages</i>, Vol. 6 (査読あり, 近日公開予定) ● 論文② Shuichiro Nakao “” Stefano Manfredi & Mauro Tosco (eds.) <i>Arabic in Contact</i>. Amsterdam: John Benjamins. (印刷中) ● 論文③ 仲尾周一郎 「周縁アラビア語における喉頭化音—古期アラビア語強調音の再建に向けて—」『アラブ・イスラム研究』(査読あり, 投稿中) <p>以上に加え、2018年8月にモロッコで開催予定の世界アフリカ言語学会議(WOCAL9)に“West African Arabic: A philological linguistic approach”と題した研究発表を応募し、採用された。また、来年度の完成を目途にして、報告者の博士論文“A Grammar of Juba Arabic”(2017年京都大学提出)の出版計画について進めている。</p>	